

# 植物の ような建築

植物のような建築。

植物のもつ構成原理や形態から建築を考えることはできないでしょうか。

それは、単純なハコで均質な空間ではなく、多様で生き生きした空間が生まれる可能性を秘めているのではないのでしょうか。

自然の一部のような建築。建築という人工物から、自然に近い人工物としての建築。

そんな建築は、見る人や体験する人に建築という堅い印象を与えるのではなく、自然物のもつおおらかさややわらかみのある印象を与えるはずです。



花を見てみましょう。

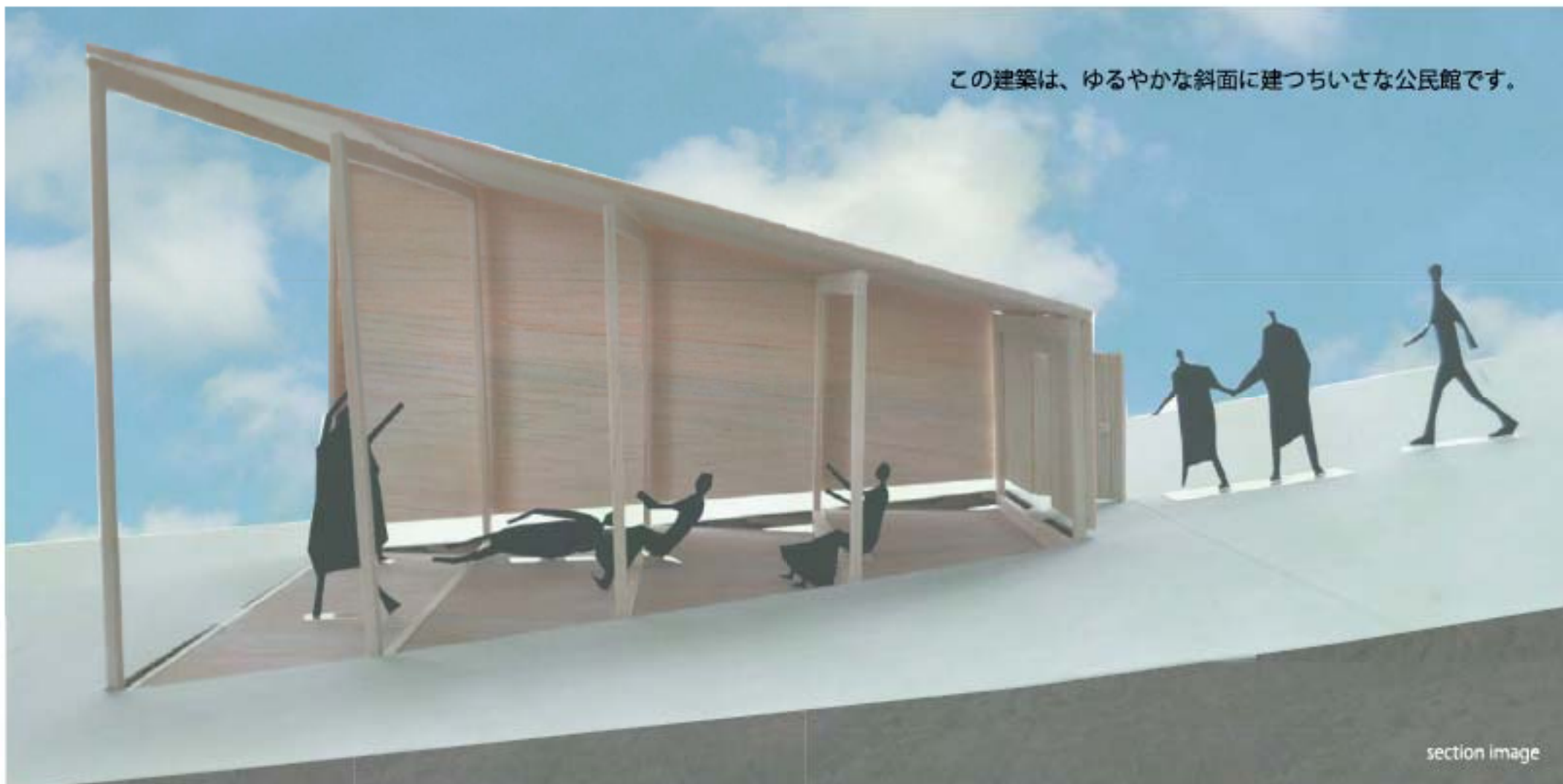


なんだか真ん中に吸い込まれていくような感覚を覚えます。  
きれいな曲線の花びらがそれを一層際立たせています。  
花のもつ優雅な空間を生み出せないでしょうか。



朝顔

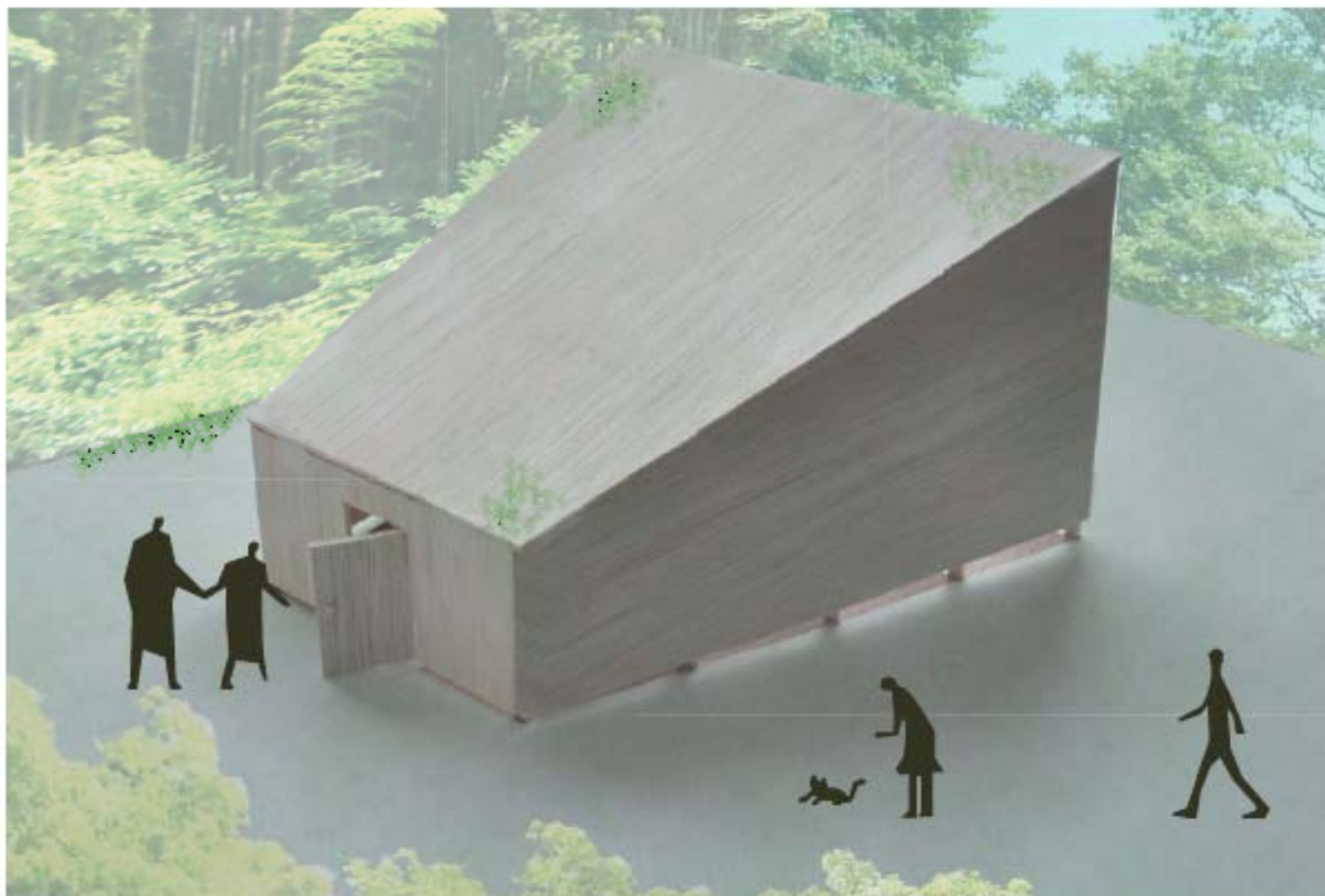
この建築は、ゆるやかな斜面に建つちいさな公民館です。



section image

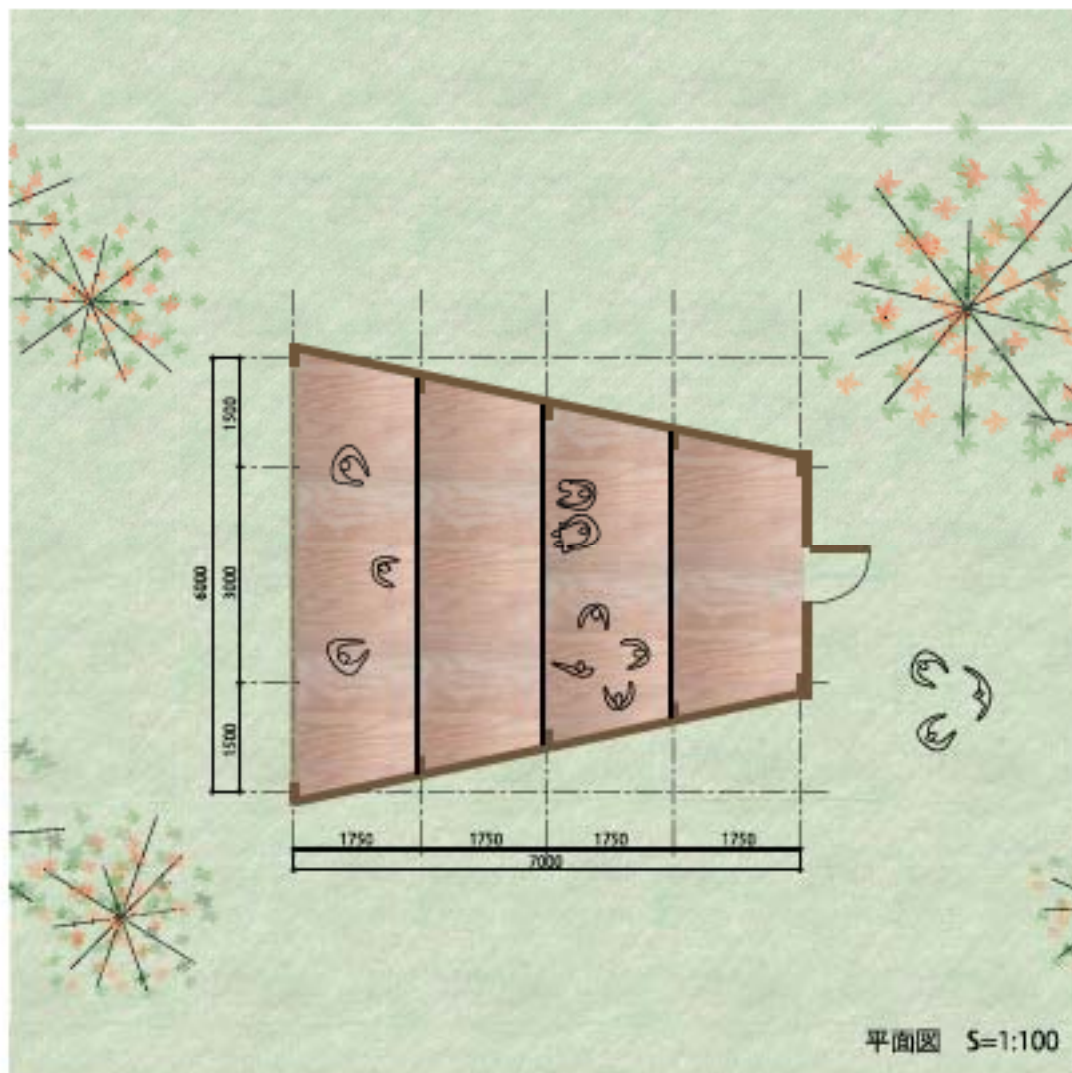


この建築は、花の形から  
インスパイアされた  
未広がり空間でできています。

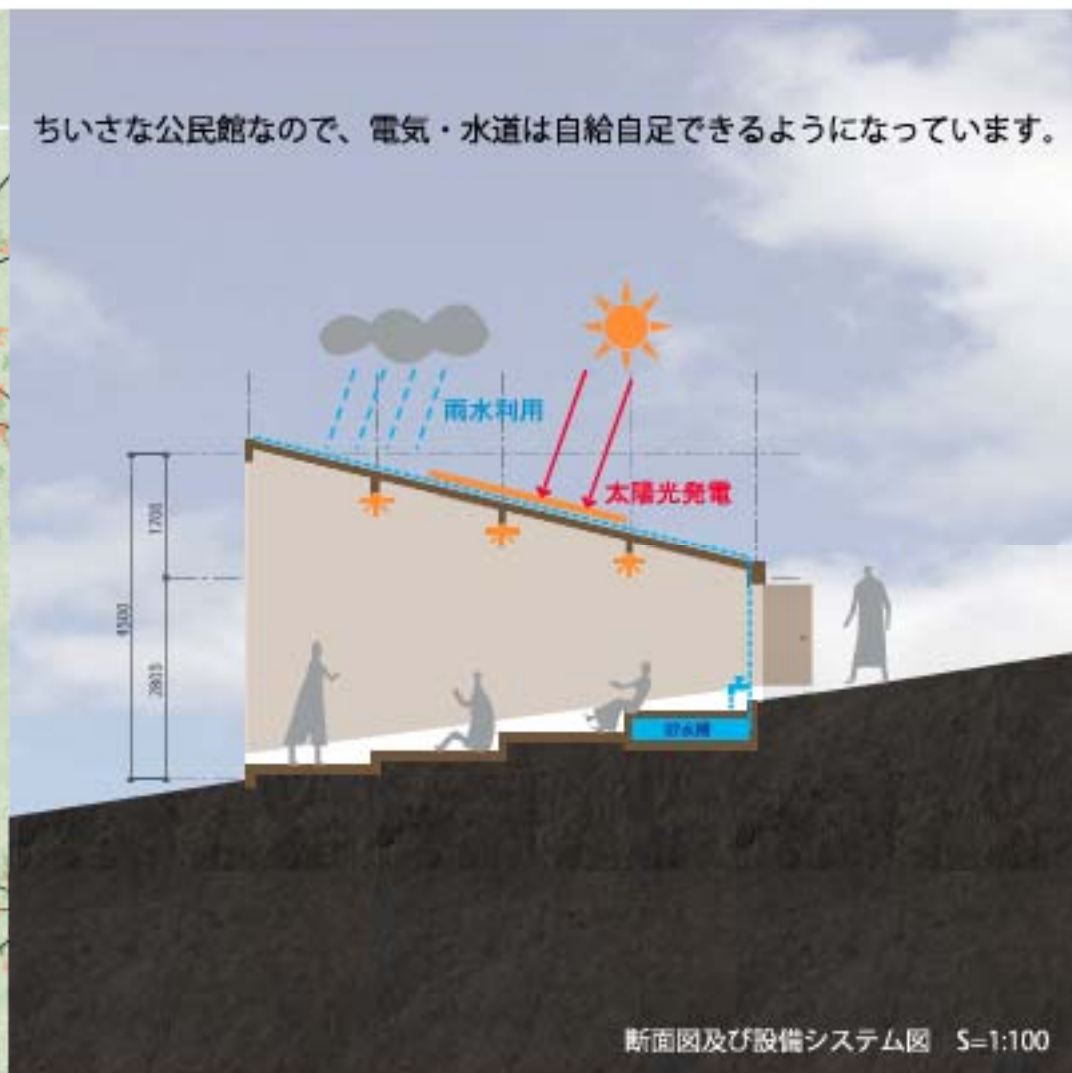


花の形から生み出された未広がりの空間は、時として映画館に、時として劇場に、時として教室になります。





ちいさな公民館なので、電気・水道は自給自足できるようになっています。





次は、花より大きな木の構造を見てみましょう。  
木は、太い幹から枝が生え、そして葉がつきます。



下の写真は、道を上から見た写真です。  
何だか木と似た構造をしています。

それぞれのできあがり方を見てみましょう。





木の生成パターン



木を上から見る



太い幹や枝



そこから中ぐらいの枝が伸び

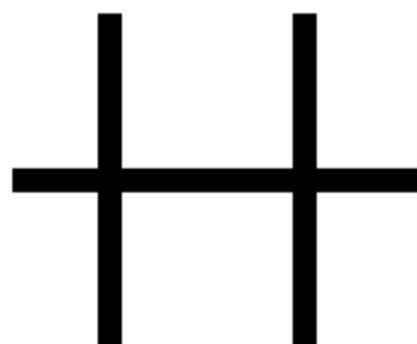


細くて新しい枝が伸びる

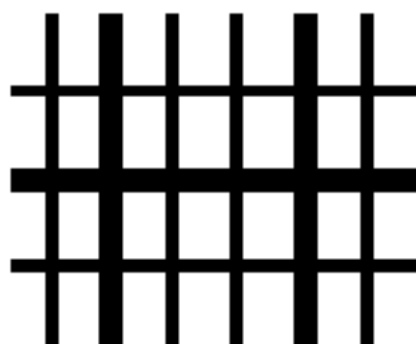
道の生成パターン



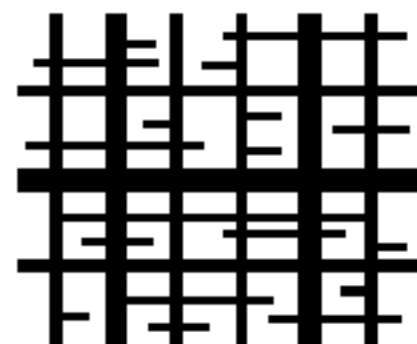
町を上から見る



大きい幹線道路ができる



そこから少し大きな通りができ



細い路地ができる

木は自然のもので、道は人がつくったものなのに生成パターンが似ているのは不思議なことです。

しかし、そのように見てみると道がなんだか自然物にも人工物にも見えてきます。

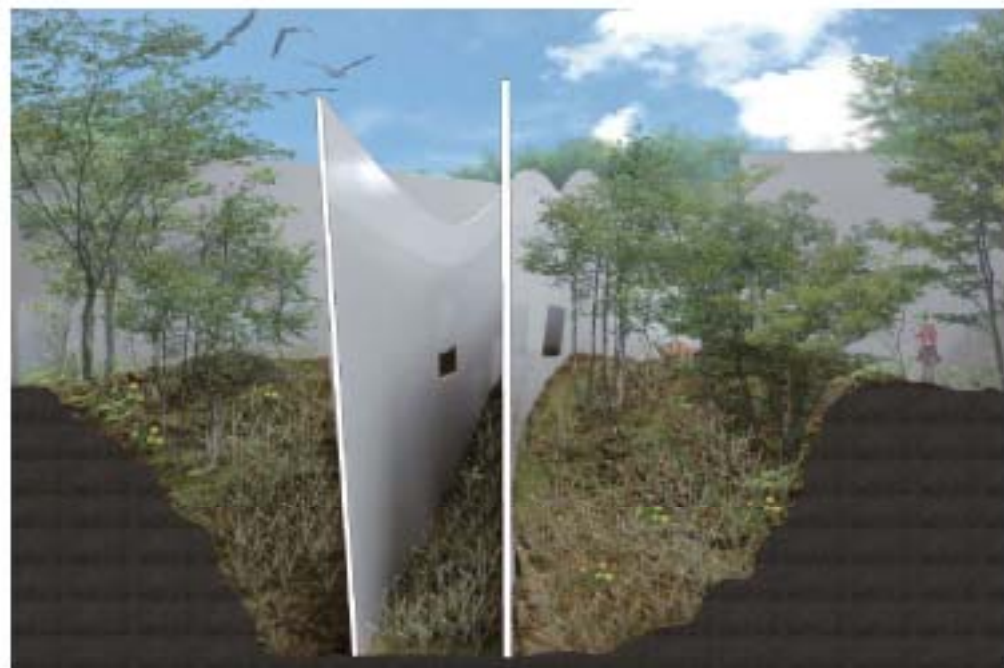
木ができあがるように、道ができあがるように建築をつくと、なにか自然物のような建築ができあがるのではないのでしょうか。







みちとみちに挟まれた空間は、みんなの広場になります。



このみちを歩いていくと、さまざまな場所にめぐりあいます。  
自分だけしか知らない奥まった場所。みんなが集まる大きな場所。

さらに歩いていくと、はじめは本を読んでいる人がたくさんいる  
静かな雰囲気だったけれど、だんだんとBGMが流れ人々が踊っ  
ているにぎやかな雰囲気につつまれます。  
遠回りになるけどマワリミチしたくなる。そんな建築。



木の構造や道の構造パターンを観察して建築に応用することで、  
建築という人工物から、自然物に近い人工物になるということが  
起こりうるのではないだろうか。  
新しい建築と自然の融合の可能性。